

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-46333

(P2010-46333A)

(43) 公開日 平成22年3月4日(2010.3.4)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 6 1 B 1/00 (2006.01)	A 6 1 B 1/00 3 3 2 A	2 H 0 4 0
G 0 2 B 23/24 (2006.01)	G 0 2 B 23/24 A	4 C 0 6 1

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2008-213920 (P2008-213920)	(71) 出願人	000005430
(22) 出願日	平成20年8月22日 (2008. 8. 22)		
			フジノン株式会社
			埼玉県さいたま市北区植竹町 1 丁目 3 2 4
			番地
		(74) 代理人	100098372
			弁理士 緒方 保人
		(74) 代理人	100097984
			弁理士 川野 宏
		(72) 発明者	山根 健二
			埼玉県さいたま市北区植竹町 1 丁目 3 2 4
			番地 フジノン株式会社内
		F ターム (参考)	2H040 DA21 DA56 DA57
			4C061 FF38 HH02 HH04 HH08

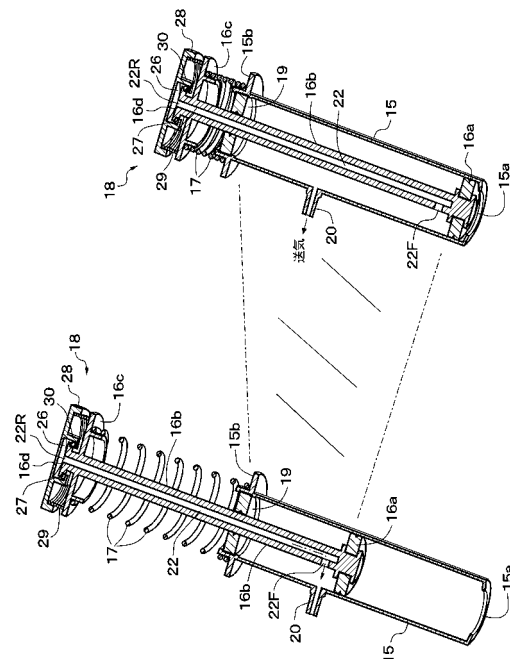
(54) 【発明の名称】 自動復帰式シリンジ及びこの自動復帰式シリンジを用いた内視鏡装置

(57) 【要約】

【課題】供給量に制限のない連続した送気又は送水を容易に行い、内視鏡装置の携帯化、簡易化に繋がる送気又は送水に関する機器の携帯化、簡易化を図る。

【解決手段】側面にシリンジ口 20 を形成した筒体 15、第 1 通気路 22 を形成したピストン体 16、開閉する第 2 通気路 26 を形成した押操作部 18 を備え、この押操作部 18 では、第 2 バネ 29 にて復帰する押体 28 を設け、この押体 28 が押されたとき、第 2 通気路 26 が開状態となるように構成し、また押されたピストン体 16 を元の位置へ復動させる第 1 バネ 17 を配置する。上記押体 28 が押されたとき、開状態となった第 2 通気路 26 と第 1 通気路 22 を介して外部空気を筒体内に流入させながらピストン体 16 を往動させ、押体 28 の操作が解除されたとき、第 2 通気路 26 を閉状態とし、第 1 バネ 17 によってピストン体 16 を復動させながらシリンジ口 20 から送気を行う。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

側面にシリンジ口を形成した筒体と、

この筒体内面に密着して往復動し、外部空気を筒体内へ流入させる第 1 通気路を形成したピストン体と、

このピストン体と上記筒体との間に配置され、往動した該ピストン体を元の位置へ復動させる第 1 付勢部材と、

上記ピストン体に対し往復動するように連結され、該ピストン体の押部となる押体を有し、この押体の往動時に開状態、復動時に閉状態となり、この開状態のとき、上記第 1 通気路に連通して外部空気を筒体内へ流入させるための第 2 通気路を形成した押操作部と、

この押操作部の押体と上記ピストン体との間に配置され、押し操作で往動させた該押体を元の位置へ復動させる第 2 付勢部材と、を含んでなり、

上記押操作部の押体を押されたとき、開状態となった第 2 通気路と第 1 通気路を介して外部空気を上記筒体内へ流入させながら上記ピストン体を往動させ、上記押体の押し操作が解除されたとき、上記第 2 通気路を閉状態とし、上記第 1 付勢部材によってピストン体を元の位置へ復動させながら上記シリンジ口から送気を行う自動復帰式シリンジ。

【請求項 2】

請求項 1 記載の自動復帰式シリンジを内視鏡装置の送気 / 送水機器として用い、上記筒体のシリンジ口を内視鏡の送気ポートに管接続し、又は内視鏡の送水ポートに管接続された送水タンクに管接続することを特徴とする自動復帰式シリンジを用いた内視鏡装置。

【請求項 3】

送気管と送水管が配設された筒状の受け部と、この受け部内に上下動可能に配置され、1 段目押部により押し下げられたとき上記受け部の送気管に連通する連結路が形成された第 1 軸体と、この第 1 軸体の外周側に上下動可能に配置され、2 段目押部により押し下げられたとき上記受け部の送水管に連通する連結路が形成された第 2 軸体と、を有してなる送気 / 送水操作部を設け、

この送気 / 送水操作部の 1 段目押部及び 2 段目押部の操作により上記自動復帰式シリンジを用いて送気又は送水を実行することを特徴とする請求項 2 記載の自動復帰式シリンジを用いた内視鏡装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、送気 / 送水（送気又は / 及び送水）を行うことができる自動復帰式シリンジ、及び内視鏡内の送気管又は送水管を利用して送気又は送水を行い、かつ携帯できる内視鏡装置の送気 / 送水のためのシリンジの構成に関する。

【背景技術】**【0002】**

図 9 には、従来の内視鏡装置の構成が示されており、内視鏡（スコープ）は、例えば観察窓を含む対物光学系や固体撮像素子を備えた先端部 1 A、湾曲部を介して設けられた操作部 1 B 等を有する。この内視鏡には、先端面に配置された観察窓を洗浄するために、送気 / 送水管 3 a と、この送気 / 送水管 3 a から分岐する送気管 3 b 及び送水管 3 c が配設され、操作部 1 B に、送気管 3 b と送水管 3 c の切替えと送気 / 送水の操作をする送気 / 送水ボタン 4 a が設けられる。

【0003】

また、上記送水管 3 c には、洗浄水を入れた送水タンク 6 を介して、送気 / 送水用のポンプ 8 が接続され、送気管 3 b には、直接、送気 / 送水用のポンプ 8 が接続される。なお、この操作部 1 B には、吸引ボタン 4 b、カメラシャッターボタン 4 c が配置されると共に、内視鏡内に配設された処置具挿通チャンネルに処置具を導入するための鉗子口 5 等が設けられる。

【0004】

図 10 には、上記送気 / 送水ボタン 4 a を有する送気 / 送水操作部の構成が示されており、この送気 / 送水操作部には、受け部 10 の内部に軸部（押部及びピストン）11 がスプリングを介して上下動可能に配置され、この軸部 11 の上部が送気 / 送水ボタン 4 a となる。そして、上記受け部 10 に、送気管 3 b と送水管 3 c が配管され、上記軸部 11 には、送気路 12 E、大気開放路 12 F、送水路 13 E が形成される。

【0005】

このような内視鏡装置によれば、ポンプ 8 の作動で送られる空気は送気管 3 b から大気開放路 18 F を介して大気の流れており、上記送気 / 送水ボタン 4 a（軸部 11）の上面を押え、大気開放管 12 F を塞いだとき（送気操作）、送気路 12 E が送気管 3 b に連通することで、ポンプ 8 からの送気が先端面のノズルから観察窓に対して行われる。一方、送気 / 送水ボタン 4 a を押すと（送水操作）、送気管 3 b が閉じて送水路 13 E が送水管 3 c に連通することで、送水タンク 6 内の洗浄水が観察窓へ向けて噴射される。このような送気と送水により、観察窓に付着した汚れ等を除去し、被観察体の観察状態を良好に保つことができる。

10

【特許文献 1】特開 2003 - 135391 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、従来の内視鏡装置において送気 / 送水を行う場合は、上述のように送気 / 送水用ポンプ（装置）8 が必要となり、この送気 / 送水用ポンプ 8 を配置した施設以外の場所では、内視鏡を使用することが困難であるという問題があった。

20

【0007】

内視鏡装置の携帯化は、設備の整った施設以外の各種場所での使用、ベッドサイドでの使用、緊急時の使用等を可能にし、また構成の簡易化は、コストの低減に繋がり、送気又は送水に関する機器の携帯化、簡易化ができれば、利便性の高い内視鏡装置を提供できることになる。

【0008】

また、一般に用いられるシリンジでは、手動でピストンを押し操作することで、送気又は送水のいずれかを 1 回行うことができるが、供給量の制限のない連続した送気又は送水を容易に行うことはできなかった。

30

【0009】

本発明は上記問題点に鑑みてなされたものであり、その目的は、供給量に制限のない連続した送気又は送水を容易に行うことができる自動復帰式シリンジ、及び内視鏡装置の携帯化、簡易化に繋がる送気又は送水に関する機器の携帯化、簡易化を図ることが可能になる自動復帰式シリンジを用いた内視鏡装置を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記目的を達成するために、請求項 1 の発明に係る自動復帰式シリンジは、側面にシリンジ口を形成した筒体と、この筒体内面に密着して往復動し、外部空気を筒体内へ流入させる第 1 通気路を形成したピストン体と、このピストン体と上記筒体との間に配置され、往動した該ピストン体を元の位置へ復動させる第 1 付勢部材と、上記ピストン体に対し往復動するように連結され、該ピストン体の押部となる押体を有し、この押体の往動時に開状態、復動時に閉状態となり、この開状態のとき、上記第 1 通気路に連通して外部空気を筒体内へ流入させるための第 2 通気路を形成した押操作部と、この押操作部の押体と上記ピストン体との間に配置され、押し操作で往動させた該押体を元の位置へ復動させる第 2 付勢部材と、を含んでなり、上記押操作部の押体を押されたとき、開状態となった第 2 通気路と第 1 通気路を介して外部空気を上記筒体内へ流入させながら上記ピストン体を往動させ、上記押体の押し操作が解除されたとき、上記第 2 通気路を閉状態とし、上記第 1 付勢部材によってピストン体を元の位置へ復動させながら上記シリンジ口から送気を行うことを特徴とする。

40

50

請求項 2 の発明に係る自動復帰式シリンジを用いた内視鏡装置は、請求項 1 記載の自動復帰式シリンジを内視鏡装置の送気 / 送水機器として用い、上記筒体のシリンジ口を内視鏡の送気ポートに管接続し、又は内視鏡の送水ポートに管接続された送水タンクに管接続することを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

請求項 3 に係る自動復帰式シリンジを用いた内視鏡装置は、送気管と送水管が配設された筒状の受け部と、この受け部内に上下動可能に配置され、1 段目押部（送気押部）により押し下げられたとき上記受け部の送気管に連通する連結路が形成された第 1 軸体と、この第 1 軸体の外周側に上下動可能に配置され、2 段目押部（送水押部）により押し下げられたとき上記受け部の送水管に連通する連結路が形成された第 2 軸体と、を有してなる送気 / 送水操作部を設け、この送気 / 送水操作部の 1 段目押部及び 2 段目押部の操作により上記自動復帰式シリンジを用いて送気又は送水を実行することを特徴とする。

10

【 0 0 1 2 】

本発明の構成によれば、第 2 付勢部材に抗して押操作部の押体を親指等で押し、該押体を往動させると（第 1 段押し操作）、押操作部内の第 2 通気路が開状態となり、次いで第 1 付勢部材に抗して押体でピストン体を押すと（第 2 段押し操作）、第 1 通気路と第 2 通気路を介して外部空気が筒体内まで流入しながら、ピストン体が往動し先端側へ移動する。その後、押し操作を解除すると、第 2 付勢部材により押体が復動し、押操作部内の第 2 通気路が閉状態となって第 1 通気路と第 2 通気路からの空気流入が停止するが、同時に、第 1 付勢部材によってピストン体が復動することになり、この結果、筒体内の空気によってシリンジ口からの送気が行われる。このピストン体は、第 1 付勢部材によって自動的に元の位置へ戻り、押操作部の繰返しの操作によって、筒体内の容量に関係なく、連続して送気を行うことが可能となる。

20

【 0 0 1 3 】

更に、請求項 2 又は 3 に係る内視鏡装置の場合は、上記シリンジ口を内視鏡の送気ポートに管接続することにより、内視鏡の送気管を介して例えば観察窓に対する送気を行うことができ、また上記シリンジ口を送水タンクに接続することにより、この送水タンク内の水を内視鏡の送水ポートから送水管へ供給し、観察窓に対する送水を実行することができる。

【 0 0 1 4 】

また、請求項 3 の構成では、シリンジ口を送気ポート又は送水ポートに接続した後、ピストン体を押した状態にしておけば、送気 / 送水のための送気力チャージが行われた状態となり、送気 / 送水操作部における第 1 軸体の 1 段目押部の操作で必要に応じた量の送気が適宜かつ容易に行え、また第 2 軸体の 2 段目押部の操作で必要に応じた量の送水が適宜かつ容易に行えることになる。

30

【 発明の効果 】

【 0 0 1 5 】

本発明の自動復帰式シリンジによれば、押体による 2 段階の押し操作を繰り返すことで、供給量に制限のない連続した送気又は送水を容易に行うことができるという効果がある。

40

また、自動復帰式シリンジを用いた内視鏡装置によれば、送気 / 送水に関する機器の携帯化、簡易化、ひいては内視鏡装置の携帯化、簡易化が可能となり、設備の整った施設以外の各種場所、ベッドサイド、緊急時等における内視鏡の使用が容易となり、利便性の高い内視鏡装置が得られるという効果がある。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 6 】

図 1 乃至図 5 には、実施例に係る自動復帰式シリンジの構成が示され、図 6 乃至図 8 には、図 1 の自動復帰式シリンジを内視鏡装置に適用した場合の構成が示されている。図 1 において、実施例のシリンジは、円筒状の筒体 15、ピストン体（スライダー）16、第 1 パネ 17 及び押操作部 18 を有してなる。上記筒体 15 には、その先端面に開口（通気

50

口) 15 a が形成され、後端部が例えばゴム部材からなる仕切り板 19 によって塞がれており、側面に、シリンジ口 20 が設けられる。

【0017】

一方、ピストン体 16 は、上記筒体 15 の内面に密着しながら摺動（往復動）する所定厚さの円板状のピストン部（例えばゴム部材からなる摺動部）16 a、このピストン部 16 a を支持する円柱棒状の軸部 16 b を備え、この軸部 16 b の径方向中心部に第 1 通気路（管路）22 が設けられており、この第 1 通気路 22 は、軸部後端口 22 R から軸部先端側側面口 22 F まで形成される。上記ピストン部 16 a は、軸部 16 b の外周の環状溝部に、円板状ゴム部材の中心貫通孔を嵌合・配置することで形成される。

【0018】

また、この軸部 16 b の後端部に、上記押操作部 18 が一体的に設けられており、この押操作部 18 は、図 5 の拡大図にも示されるように、ピストン体 16 側の支持円板部 16 c、第 2 通気路 26 を形成するための小円板部 16 d、Oリング 27、円形冠状の押体 28、第 2 パネ（スプリング）29 を有してなる。即ち、上記小円板部 16 d には、その下側（先端側）に形成された段差部に、Oリング 27 が取り付けられ、また図 4（A）、（B）に示されるように、第 2 通気路 26 の一部を構成するための通気溝 E₁ が小円板部 16 d の外周の複数箇所（例えば 4 箇所）に切込み形成される。

【0019】

上記冠状押体 28 には、その下側（先端側）の中心部に上記小円板部 16 d の半径よりも少し小さな半径の円形空洞を形成する円形皿状体で、その中心位置に円形開口 30 a を開けた囲い体 30 が設けられ、この囲い体 30 内に上記小円板部 16 d が配置される。また、この囲い体 30 には、図 4（C）、（D）に示されるように、その底面部（先端側）の円周方向の複数箇所（例えば 4 箇所）に、円形開口 30 a から外周側へ向けて形成された通気溝 E₂ が設けられる。そして、この押体 28 を後端方向へ付勢するように、冠状押体 28 と上記支持円板部 16 c との間に第 2 パネ 29 が配置される。

【0020】

このような押操作部 18 の構成によれば、図 5（A）に示されるように、押体 28 の操作解除時では、第 2 パネ 29 の付勢によって押体 28 が後端側へ移動し、その囲い体 30 の内面（皿形底面部の内面）が小円板部 16 d 下側の Oリング 27 に密着するので、第 2 通気路 26 が閉状態となる。一方、図 5（B）に示されるように、押体 28 の押し操作時では、押体 28 が先端側のピストン体側へ移動し、囲い体 30 の内面が Oリング 27 から離れるので、第 1 通気路 22 から連通する第 2 通気路 26 が開状態となる。即ち、第 2 通気路 26 は、第 1 通気路 22 に連通する囲い体 30 内の空間、通気溝 E₁、円形開口 30 a、通気溝 E₂ からなり、この通気溝 E₂ から外部空気が導入される。

【0021】

更に、上記第 1 パネ（スプリング）17 は、上記筒体 15 の後側のフランジ部 15 b と押操作部 18 の支持円板部 16 c との間に（それぞれに係合する状態で）配置され、押されたピストン体 16 を元の位置へ復帰（復動）させることができる。

【0022】

このような自動復帰式シリンジによれば、図 1（A）の基本状態（不操作時）から、押体 28（押操作部 18）を親指等で第 2 パネ 29 の付勢力に抗して押すと（第 1 段目押し）、図 5（B）にも示されるように、押体 28 がピストン体側へ移動することで、囲い体 30 の内面が Oリング 27 から離れ、囲い体 30 内空間、通気溝 E₁、円形開口 30 a、通気溝 E₂ からなる第 2 通気路 26 が開状態となる。次いで、押体 28 を第 1 パネ 17 の付勢力に抗して押すと（第 2 段目押し）、外部の空気が第 2 通気路 26 を通り、第 1 通気路 22（後端口 22 R、先端側側面口 22 F）を介して筒体 15 内へ流入し、また筒体 15 内のピストン部 16 a の前側の空気が開口 15 a から流出することで、シリンジ口 20 から吸気することなく、ピストン体 16 を先端側位置まで往動させることができ、図 1（B）の状態となる。

【0023】

10

20

30

40

50

この図 1 (B) の状態で、押体 2 8 の操作を解除すると、図 5 (A) にも示されるように、囲い体 3 0 内面が O リング 2 7 に密着し、第 2 通気路 2 6 が閉状態となって、外部空気が第 1 通気路 2 2 を介して筒体 1 5 内へ流入しなくなり、第 1 パネ 1 7 によってピストン体 1 6 が復動し、筒体 1 5 内の空気がシリンジ口 2 0 から送られる。従って、このシリンジ口 2 0 をチューブ等により目的部に連結すれば、目的部に送気を行うことができ、送水部に連結すれば、送水部を介して送水をすることもできる。上記押体 2 8 による 2 段階の押し操作は、送気後に繰り返して行うことができ、連続した複数回の操作で、量に制限のない送気が実行可能となる。

【 0 0 2 4 】

図 6 は、上記の自動復帰式シリンジを送気 / 送水機器として内視鏡装置に適用したときの構成であり、図示されるように、内視鏡操作部 3 2 には、送気ポート (送気管接続口) 3 3、送水ポート (送水管接続口) 3 4 が設けられる。そして、上記送気ポート 3 3 に、二股 (分岐) チューブの一方の連結チューブ 3 6 a を介して自動復帰式シリンジのシリンジ口 2 0 が接続され、二股チューブの他方の連結チューブ 3 6 b が送水タンク 3 7 (一方の接続口) に接続配置され、この送水タンク 3 7 (他方の接続口) が連結チューブ 3 6 c を介して上記送水ポート 3 4 に接続される。また、この内視鏡操作部 3 2 には、送気 / 送水操作部 3 9 が設けられている。

【 0 0 2 5 】

図 7 には、上記送気 / 送水操作部 3 9 の内部構成が示されており、この送気 / 送水操作部 (送気管及び送水管開閉機構) 3 9 は、送気管 4 1 と送水管 4 2 が配設された筒状の受け部 4 3、この受け部 4 3 内に上下動可能に配置された第 1 軸体 (ピストン) 4 4、この第 1 軸体 4 4 の外周側に配置され、第 1 軸体 4 4 の上側への移動を、内径を小さくした段差部 4 5 c で規制する第 2 軸体 4 5 を有してなる。上記第 1 軸体 4 4 には、押し下げられたとき送気管 4 1 と連通する連結路 (軸体内に貫通する孔) 4 4 E が形成されると共に、上部に 1 段目押部 (送気押部) 4 4 a が設けられ、上記第 2 軸体 4 5 には、押し下げられたとき送水管 4 2 と連通する連結路 (外周径を小さくした部分) 4 5 E が形成されると共に、上部に接続部材 4 5 b を介して 2 段目押部 (送水押部) 4 5 a が設けられる。1 段目押部 4 4 a は、2 段目押部 4 5 a の中心貫通孔に上下動可能に配置される。

【 0 0 2 6 】

上記第 2 軸体 4 5 は、受け部 4 3 側の支持板 4 7 によって上側への移動が規制され、上記第 1 軸体 4 4 は、上述のように、第 2 軸体 4 5 によって上側の移動が規制される。また、第 1 軸体 4 4 の押部 4 4 a の下面と上記押部 4 5 a の接続部材 4 5 b の上面との間に、第 1 軸体 4 4 を上側へ付勢するための第 3 パネ (スプリング) 4 9 が設けられると共に、上記押部 4 5 a の接続部材 4 5 b の下面と上記受け部 4 3 側の支持板 4 7 の上面との間に、第 2 軸体 4 5 を上側へ付勢するための第 4 パネ 5 0 が設けられる。

【 0 0 2 7 】

このような送気 / 送水操作部 (送気管及び送水管開閉機構) 3 9 によれば、中心部上側に突出した 1 段目押部 4 4 a が押されると、第 1 軸体 4 4 が単独で下側へ移動 (往動) し、その連結路 4 4 E を送気管 4 1 に連通させることで、送気管 4 1 を開にし、更に 2 段目押部 4 5 a が押されると、第 2 軸体 4 5 が第 1 軸体 4 4 と共に下側へ移動し、その連結路 4 5 E を送気管 4 2 に連通させることで、送水管 4 2 を開にすることができる。

【 0 0 2 8 】

このような内視鏡装置によれば、自動復帰式シリンジにおいて、図 1 (A) の基本状態から親指等で押体 2 8 の第 1 段目の押し操作をすると、図 5 (B) で説明したように、押体 2 8 がピストン体側へ移動して囲い体 3 0 の内面が O リング 2 7 から離れ、囲い体 3 0 内空間、通気溝 E_1 、円形開口 3 0 a、通気溝 E_2 からなる第 2 通気路 2 6 が開状態となる。次いで、押体 2 8 の第 2 段目の押し操作をすると、外部の空気が第 2 通気路 2 6、第 1 通気路 2 2 を介して筒体 1 5 内へ供給されることで、図 6 のようにピストン体 1 6 が先端側位置まで移動して停止し、シリンジ口 2 0 からの送気が可能な状態 (送気力チャージ状態) となる。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 9 】

そして、内視鏡操作部 3 2 の送気 / 送水操作部 3 9 において、図 7 の状態から 1 段目押部 4 4 a を押すと、図 8 (A) のように、第 1 軸体 4 4 が単独で下側へ移動し、その連結路 4 4 E が送気管 4 1 に接続されることで、送気管 4 1 が開状態となるので、上記自動復帰式シリンジのシリンジ口 2 0 から、連結チューブ 3 6 a、送気ポート 3 3 及び送気管 4 1 を介して、観察窓へ送気が行われる。次いで、2 段目押部 4 5 a を押すと、図 8 (B) のように、第 2 軸体 4 5 が第 1 軸体 4 4 と共に下側へ移動し、その連結路 4 5 E が送水管 4 2 に接続されることで、送水管 4 2 が開状態となるので、シリンジ口 2 0 から、連結チューブ 3 6 b を介して送水タンク 3 7 内へ送気が行われることになり、これによって、送水タンク 3 7 内の洗浄水等が連結チューブ 2 6 c、送水ポート 3 4 及び送水管 4 2 を介して、観察窓へ送水が行われる。

10

【 0 0 3 0 】

このような送気 / 送水操作部 3 9 の操作によれば、必要な少量の送気又は送水を適宜かつ容易に行うことができるという利点がある。また、自動復帰式シリンジのピストン体 1 6 が完全に元の位置へ復帰したときには、押操作部 1 8 によるピストン体 1 6 の押し操作を繰り返すことで、量に制限のない送気又は送水が可能となる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 1 】

【 図 1 】本発明の実施例に係る自動復帰式シリンジの構成を示し、図 (A) は不操作時の断面図、図 (B) は押し操作時の断面図である。

20

【 図 2 】実施例の自動復帰式シリンジの構成を示す分解斜視図である。

【 図 3 】実施例の自動復帰式シリンジの斜視図である。

【 図 4 】実施例の自動復帰式シリンジの押操作部の構成を示し、図 (A) は小円板部を後端側から見た図、図 (B) は小円板部の縦断面図、図 (C) は囲い体の縦断面図、図 (D) は囲い体を先端側から見た図である。

【 図 5 】実施例の自動復帰式シリンジの押操作部を拡大したもので、図 (A) は不操作時の断面図、図 (B) は押し操作時の断面図である。

【 図 6 】実施例に係る自動復帰式シリンジを用いた内視鏡装置の構成で、押し操作時の状態を示す斜視 (一部断面) 図である。

【 図 7 】実施例に係る内視鏡装置の送気 / 送水操作部の構成を示す断面図である。

30

【 図 8 】実施例の送気 / 送水操作部の構成を示し、図 (A) は 1 段目押部を操作した時の断面図、図 (B) は 2 段目押部を操作したときの断面図である。

【 図 9 】従来の内視鏡装置の構成を示す図である。

【 図 1 0 】従来の内視鏡装置の送気 / 送水操作部の構成を示す断面図である。

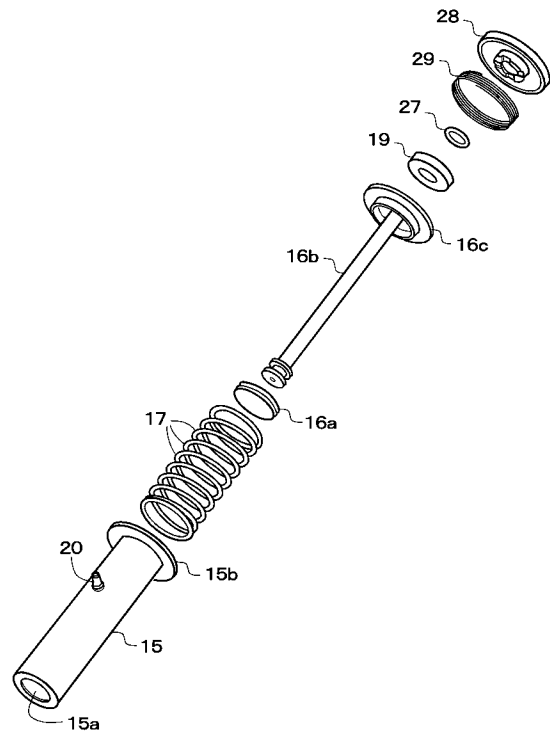
【 符号の説明 】

【 0 0 3 2 】

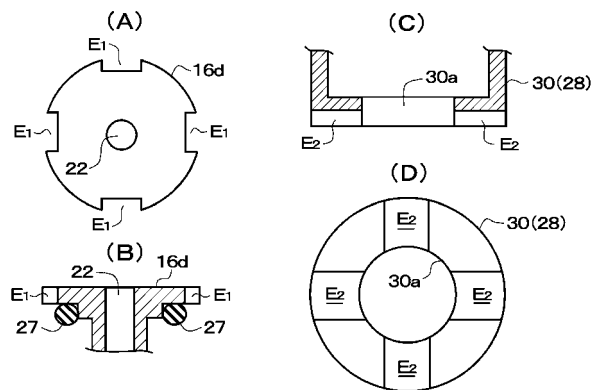
3 b , 4 1 ... 送気管、	3 c , 4 2 ... 送水管、
1 5 ... 筒体、	1 5 a ... 開口、
1 6 ... ピストン体、	1 6 a ... ピストン部 (摺動部) 、
1 6 b ... 軸部、	1 6 c ... 支持円板部、
1 6 d ... 小円板部、	1 7 ... 第 1 パネ、
1 8 ... 押操作部、	2 0 ... シリンジ口、
2 2 ... 第 1 通気路、	2 6 ... 第 2 通気路、
2 7 ... O リング、	2 8 ... 押体、
2 9 ... 第 2 パネ、	3 0 ... 囲い体、
3 9 ... 送気 / 送水操作部、	4 3 ... 受け部、
4 4 ... 第 1 軸部、	4 4 a ... 1 段目押部、
4 5 ... 第 2 軸部、	4 5 a ... 2 段目押部、
4 4 E , 4 5 E ... 連結路、	E ₁ , E ₂ ... 通気溝。

40

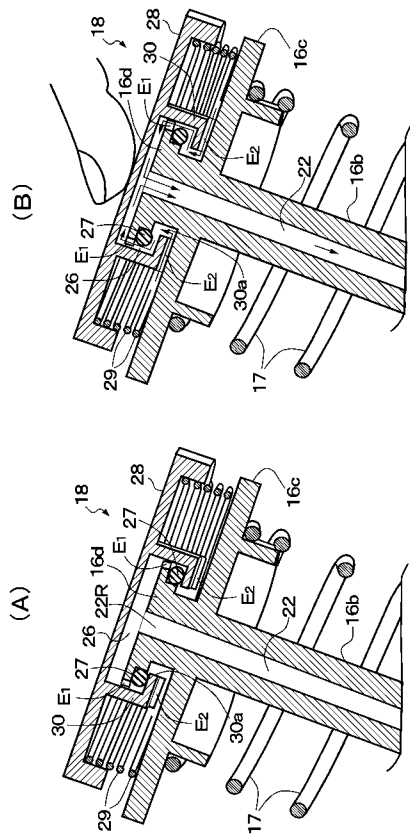
【 図 2 】



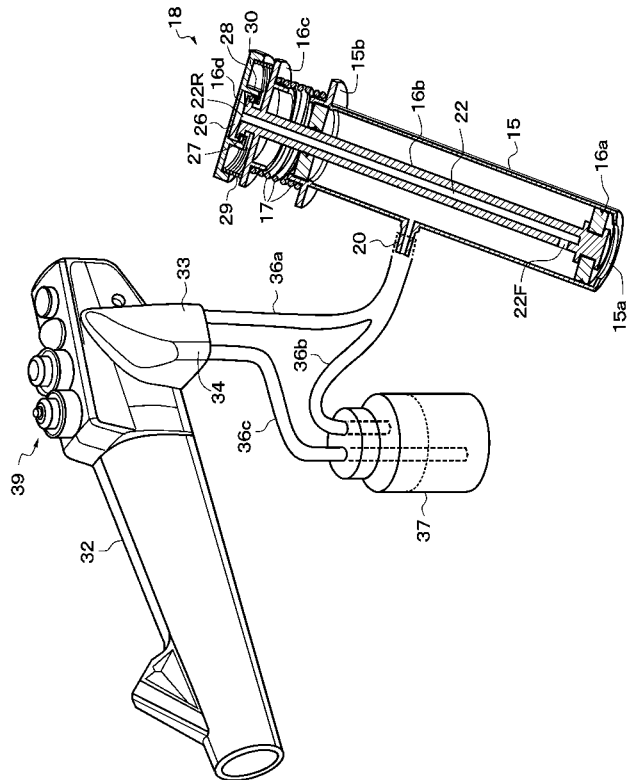
【 図 4 】



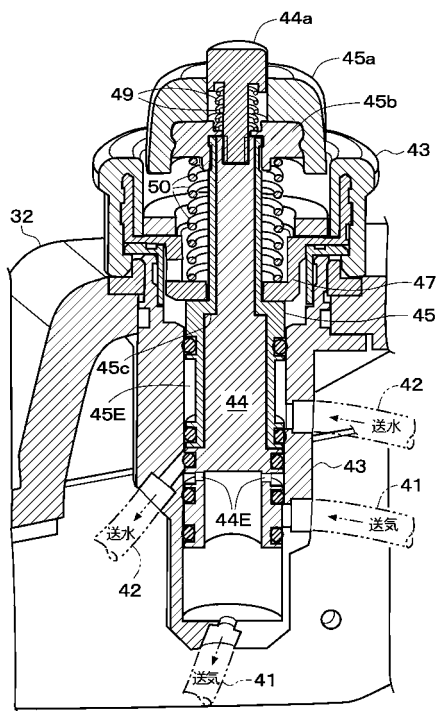
【図 5】



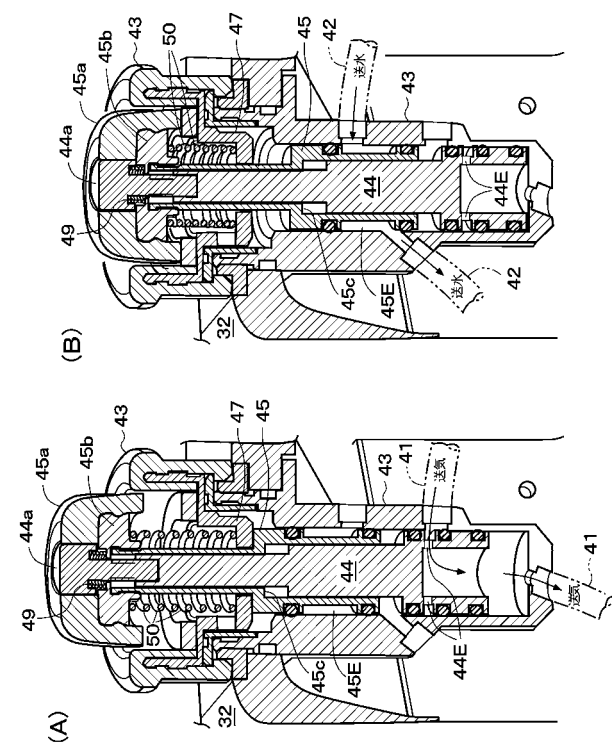
【図 6】



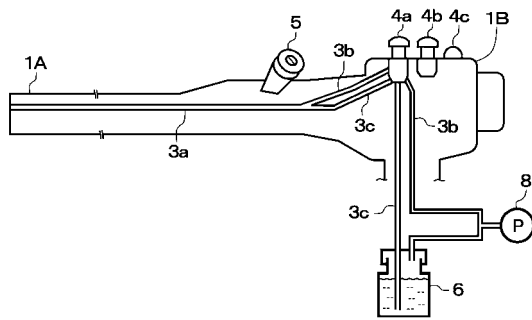
【図 7】



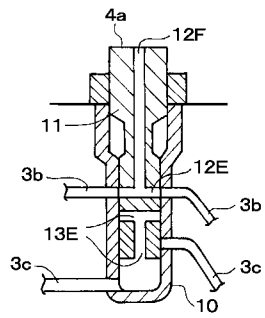
【図 8】



【 図 9 】



【 図 1 0 】



专利名称(译)	使用该自动返回式注射器的自动返回型注射器和内窥镜装置		
公开(公告)号	JP2010046333A	公开(公告)日	2010-03-04
申请号	JP2008213920	申请日	2008-08-22
[标]申请(专利权)人(译)	富士写真光机株式会社		
申请(专利权)人(译)	富士公司		
[标]发明人	山根健二		
发明人	山根 健二		
IPC分类号	A61B1/00 G02B23/24		
FI分类号	A61B1/00.332.A G02B23/24.A A61B1/00.650 A61B1/00.711 A61B1/015.511		
F-TERM分类号	2H040/DA21 2H040/DA56 2H040/DA57 4C061/FF38 4C061/HH02 4C061/HH04 4C061/HH08 4C161/FF38 4C161/HH02 4C161/HH04 4C161/HH08		
其他公开文献	JP2010046333A5 JP5127055B2		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：在不限制供应量的情况下促进连续供气，供水或抽吸，并且容易携带和简化与供气，供水和抽吸相关的装置，从而实现内窥镜的便携性和简化系统。ŽSOLUTION：该自动返回型注射器包括：管状体15，在其侧面形成有注射器端口20;活塞体16形成有第一通风通道22;推动部分18形成有打开/关闭的第二通风通道26，其中推动部分18具有由第二弹簧29返回的推动主体28，并且当推动主体28被推动时，第二通风通道26是适合开放;并且设置有第一弹簧17，使被推动的活塞体16向后移动到其初始位置。当推动主体28被推动时，活塞主体16往复运动，同时经由打开的第二通风通道26和第一通风通道22将外部空气引入管状主体中，并且当推动主体28的推动操作被释放时，第二通风通道26关闭，并且空气从注射器端口20供应，同时通过第一弹簧17使活塞体16往复运动。